

登山月報



2016年 みんなで山を考えよう!
 8月11日 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.553

みんな集まれ!なすかし雪遊び隊 2015 報告	2
第5回日本山岳遺産サミット	3
新連載 「山の日」制定記念—ふるさとの山に登ろう—	4
第77回 Mountain World	5
火山情報の提供に関する検討会報告	6
トピックス・新刊図書紹介	7
平成26年度代表者会議報告	8
平成26年度理事会(第4回)報告	9
平成27年度主な事業計画	11
中国地区山岳連盟連絡協議会に参加して	13
JMA、寄贈図書、編集後記	13

みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2015報告

「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊2015」が国立那須甲子青少年自然の家を舞台に、3月27日（金）～28日（土）の1泊2日の日程で、栃木岳連、福島岳連のご協力をいただき開催された。

今年は、東京と埼玉から男子6名、女子3名、合計9名の参加者が集まり、学年も1年生から4年生までと幅広い構成となった。

1日目は新宿西口を出発し、渋滞もなく予定通り青少年自然の家に着。開校式では隊長の本木顧問から、活動の目的についてお話をいただいた。自己紹介の後、昼食を取り、最初の活動はそり遊び。第1スキー場までそりを引きずりながら登り、到着するとみんな待っていましたとばかり一気に滑り始めた。途中から雪合戦や鬼ごっこを始める子供も現れ、雪まみれになりながら楽しく滑った。

次の活動は、民話による環境学習。地元の小学校の佐藤修校長先生を講師に、紙芝居や民話を聞きハンドクラフトを体験した。まず「ふくろうのそめものや」という紙芝居では、佐藤先生の歌に合わせてみんなで合唱し、鳥の多彩な羽毛を題材にして欲張らない堅実な生き方を学習した。次の民話「かっぱのすりばち」は、佐藤先生が原作者として絵本とアニメ制作に携わった作品。アニメのナレーターを佐藤先生自らが務めて、大人も含めて参加者全員が大きな感動を受けた。河川の上流部にみられる、甌穴（おうけつ；ポットホール）を「河童のすり鉢」と呼んでいることから、清流に生活する河童の母子と村人との交流を題材にした作品である。山の清流を守り、身近な川をきれいにするという環境保護の気持ちを高めることができた。

最後のハンドクラフトは、ヒマラヤスギの「杉ぼっくり」を用いた飾り物作り。ラメ入りの絵の具で自分だけの装飾を施し、ケースに収めてお土産にした。

夕食後は「ふりかえり」の時間として、1日目の思い出を各自でまとめ、感想を発表し合った。そして、いよいよ待ちに待ったお楽しみ会。ボランティアスタッフとしてお願いした、ももこ先生とまきこ先生をリーダーに、班対抗でドッジボールや空き缶積みなどを行い、みんなで輪になって色々なゲームを楽しんだ。

2日目は、朝の集い、ラジオ体操、朝食の後、部屋の掃除をみんなで協力して行った。日頃、自分でやることの少ない寝具の片づけや掃除機かけを体験し、子供たちには貴重な経験になったのではないだろうか。

この日も外は晴天で、風も穏やかだった。スノー

シューをはいてストックを持ち、標高1052mのパノラマ展望台に向かう。初めてスノーシューを体験する子がほとんどで、慣れない雪上歩行に始めは戸惑っていたが、次第にこつを掴んで歩けるようになった。途中で長靴が抜けたり、スノーシューがはずれたりする子もいたが、何とか全員無事に展望台に到着できた。無風晴天の展望台からは雪に覆われた1701mの赤面山がそびえ、東の遠方には八溝山のなだらかな姿が見えた。

子供たちはみんな元気で、記念写真撮影のあと休む間もなくスノードーム作りが始まった。男の先生方が切り出した雪のブロックを、子供たちが運んで積み上げていく。9人が次々に運ぶので、見る見るうちに高くなっていく。その間、女の先生方はお茶の準備。最後に平たくて薄い雪のブロックを一番上に乗せて、スノードームは完成した。去年は登れなかったパノラマ展望台で、参加者全員が最高の時間を満喫できた。

その後自然の家にもどり、昼食を済ませ、2日間の「ふりかえり」をした。多くの子供たちは、がんばったこととつらかったことの両方にスノーシューを挙げていた。スノーシュー体験は、この行事で欠かすことのできない活動になっているようだ。また、「来年も参加したい」と殆どの子供たちがコメントしていたことから、活動プログラムの内容も概ね好評だったようだ。

最後の閉講式では西内常務理事から講評をいただき、本木顧問から修了証を授与され、なすかし雪遊び隊2015は無事終了した。初めて会ったお友達とも子供たちはすぐに打ち解け、協調精神と自律する意識も芽生え、雪遊び隊の目的も概ね達成できたと考えている。1泊2日の短い期間であったが、学校以外の人たちとの団体生活で得たこと、そして自然との触れ合いの大切さ、さらに環境保護の気持ちを、今後も忘れずに成長してほしいと願っている。（文責 青木秀則）



山と溪谷社の創立80周年を記念して創設された日本山岳遺産基金も5周年を迎え、5回目のサミットが2月28日(土)13時半より東京神保町の三井ビル内インプレスグループ・セミナールームで約80名の参加者を迎えて開催されました。

日本山岳遺産基金は、日本の山の自然と文化を次世代につなげるため「山岳環境保全」「次世代育成」「安全登山啓発」をテーマに活動をしています。毎年、豊かな自然や人と自然のかかわりを有する日本の山岳地域を「日本山岳遺産」として認定し、積極的にこの3つのテーマで活動している団体に助成を行っています。

次世代育成の一環として田部井淳子さんと共催で東北の高校生の富士登山を行っているとともに、(公社)日本山岳協会にも各都道府県主催のジュニア登山教室に年間50万円の支援を頂いています。

サミットは川崎深雪山岳遺産基金会長のあいさつで始まり第1部として3か所の日本山岳遺産認定地と活動団体が発表されました。

- ① 吾妻山(福島県) 吾妻自然倶楽部
- ② 鍬ノ峰(長野県) 長野県大町高校山岳部
- ③ 徳本峠(長野県) 古道徳本峠を守る人々

それぞれの団体から、植生の復元や登山道の整備、道標設置などの活動が報告されました。

中でも長野県山岳協会理事長の大西浩顧問率いる大町高校山岳部員の若さみなぎる力強い発表が印象的で、ひときわ大きな拍手が沸きました。

アドバイザーボードの日本山岳協会顧問の田中文男氏から応募の8団体から選んだがいずれも良い活動で選考に苦労した。今年の認定団体は登山道の整備が共通点だった。

来年はさらに多くの団体からの応募を期待している

との講評がありました。

第2部は基調講演 小泉武栄東京学芸大学名誉教授の「山の魅力発見とその伝え方」がありました。

映像を使って山の自然は多彩で美しく、一つとして同じものはないとの話から始まりました。

魅力の感じ方は人によって違うがせっかくお金と体力を使って登山をするのだから植物や動物を見て楽しむだけでなく何故ここにあるのか、お互いのつながりは?など考えながら自然の中に「不思議」と「つながり」を見出して自然観察会や教育に役立ててほしい。

「自然の成り立ちのベースはすべて地質にある」と白馬岳や武蔵野台地を例にとりて植生や地形が地質(岩石の種類)と気候によって異なることをわかりやすく説明されました。時間不足の感がありましたが「自然を見ないで植物や動物の名前を覚えるだけの観察会ほもったいない」との言葉に共感を覚えました。

第3部はこの5年間に認定された16の認定地・関係者の中から当日出席された10団体の方々によるディスカッションが行われました。

テーマは「地域の山を守り、活用するための課題とは?」これまでの活動の様子と問題点について各団体から報告があり、山を守るためまた登山者の安全のために地域の特性に応じた活動を積極的にされている様子がよく分りました。

課題として行政との協力、人集めの難しさ、参加者の高齢化を上げる団体が多くありました。各都道府県の山岳連盟(協会)でも近くで活動している認定地や団体があれば協力、支援を考えてみたら良いのでは?

サミット終了後、隣室で懇親会が行われました。約1時間の短い時間でしたが各地域の方々の間で活発な意見交換と交流がなされていました。

(記 顧問・本木総子)



2014年認定地のみなさん



小泉名誉教授の基調講演

「山の日」制定記念

—ふるさとの山に登ろう—

栃木県・古賀志山(583m)

「山の日」制定記念特集ということで原稿を依頼されたが、「ふるさとの山」として考えると、はたしてどの山が一番適切な山になるのかと考えてしまった。栃木県は地形的に関東平野の中北部にあり、北西部は群馬県、福島県に接し、2000mを超える山々に囲まれ、東部は茨城県と八溝山系で接している。日光地区では関東以北で最も標高の高い白根山(奥白根山：2577m)をはじめとし、日光を代表する男体山(2486m)、太郎山(2367.5m)や女峰山(2483m)がある。また、県北には茶臼岳(1915m)を中心に那須五峰(他に朝日岳・1896m、三本槍岳・1916.9m、黒尾谷岳・1589m、南月山・1775.8m)と呼ばれる山々が連なる。一方、県央から南に東西は平野部の豊かな自然を残した里山にも恵まれている。

あらためて「ふるさとの山」と考えると、「山、高きが故に尊からず」で、必ずしも高い山が当てはまるものではなく、そこに住む人それぞれに生活とつながった「ふるさとの山」があると思っている。2003年末に地元の下野新聞創刊120周年記念事業として、栃木県山岳連盟も加わり、広く読者から推薦された「栃木百名山」の選定が行われ、2005年に「栃木百名山」として刊行された。これには、選定の条件として、登山、ハイキングとして親しまれている山、各地から眺望できる山、伝説や信仰の対象となっている山などが含まれていた。このため、今ではすべての山で登山道が開かれているが、選定時点では「百名山」といっても必ずしも登山されている山でなく、登山道がなく、登山口もわかりにくい山も含まれていた。当然ながら、ここにも応募した人の「ふるさとの山」への思いが表れていた。前置きが長くなってしまったが、ここでは個人的ではあるが、私の住む宇都宮市の西部にある「古賀志山(583m)」を、紹介したいと思う。

「古賀志山」は、宇都宮市の北西部に位置し、足尾山地の東端部をなしている。地質的には中・古生層の層状チャート、頁岩などからなり、南東側には、緑色凝灰岩が変質した「大谷石」が産出される。このため、古くから関東の岩場として、ロッククライミングのゲレンデとして知られ、登り方は変わってきているが、今でも多くのクライマーのトレーニング場として親しまれている。登山としては、山頂から東の麓に宇都宮市森林公園、赤川ダムができてから、駐車場や施設が



赤川ダム湖畔からの古賀志山(左の高い山)

整備され、ここを中心に多くの家族連れのハイキングや一般の登山者に親しまれ、県外からの登山者も多く訪れている。最近では、ジャパンカップサイクルードレースの公認コースの会場地としても知られている。この山麓では、古くから聖なる地域としても崇められ、信仰に関わる樹木等も多く、民話や歴史を調べて登山をすることも、ふるさとの山に対する理解を深めることになると思う。

古賀志山はスギの植林も広がり、その作業道も多いことと、入山者が増えたことと重なり、森林公園管理事務所が紹介している赤川ダムからの登山コース以外に無数のコースができています。基本的には南コース、北コースで、他に中尾根コース、東稜コース、南から不動の滝を通る滝コースもあるが、これらから派生した地図上にないコースがクモの巣のようにできており、標識も少ないため、低山とはいえ現在地を確かめるのに読図力が試される。地図を持たずに道なりに登る人も多いが、思い通りのコースが取れずに踏み跡的な道で、いきなり崖に遭遇することもあり、注意が必要である。落葉の時期は見通しがきくため、行く先が見えるが、夏など下草が茂ってくると先が見えにくくなるため、コースを確認して登ることが大切である。山頂からは関東平野南方に条件が良ければスカイツリーも見える。いずれにしても、家族連れから中高年登山者の健康登山、ベテランのトレーニングの場として、身近な愛される山である。

(文責：栃木県山岳連盟理事長 仙石富英)

国別総合ランキング第3位

2014年ワールドカップ(WC)における3種目(リード、ポルダ、スピード)の国別総合ランキングで日本が第3位となった。1位・フランス、2位・ロシア。表紙写真は、IFSSCのマルコ会長から表彰される神崎会長。詳細は次号に掲載。

第77回 Mountain World

アルプス6大北壁冬季単独登攀

池田常道

アルプス6つの北壁といえばガストン・レビュッファの名作『星と嵐』を思い出す。チマ・グランデ、ピッツォ・バディレ、マッターホルン、グランド・ジョラス、プティ・ドリユ、アイガーの各北壁登攀を詩情豊かにつづった作品で、日本でも多くのファンを獲得した。英国のトム・バラード(26)は、この本に魅かれて6大北壁を冬季に単独で登ろうと企てた。プロジェクト名は、レビュッファの原題Etoiles et tempetesを英訳してStarlight and Stormと決め、昨年12月からスタートした。

まず21日から22日、チマ・グランデのコミチ・ルートを登り、1月6日から7日にはピッツォ・バディレのカシン・ルート、2月10日にはマッターホルンのシュミット・ルートを2時間59分というスピードで完登した。3月8日にはグランド・ジョラスをマッキンタイア=コルトン・ルートから3時間20分で登り、14日にはプティ・ドリユのアラン=レイナンジェ・ルートを8時間で片づけて残りひとつに迫った。

最後は、冬季の期限(3月20日)までぎりぎりの19日にアイガー北壁のオリジナル・ルートを登ってプロジェクトを完成した。6大北壁の一シーズン冬季ソロは史上初めてのことで、レビュッファとのちがいは、グランド・ジョラスがウォーカー側稜のカシン・ルートでなかったことだけだった。

トム・バラードの母親は故アリソン・ハーグリーヴズである。1993年夏に6大北壁ソロを成し遂げた英国の女流クライマーで、6月から8月の2か月あまりでグランド・ジョラス(ランスール)、マッターホルン、アイガー(北東壁ラウパー・ルートのダイレクトフィニッシュ)、ピッツォ・バディレ、プティ・ドリユ、チマ・グランデの順に登った。95年春にエヴェレスト北面を無酸素でソロした2か月後K2に出かけ、やはり無酸素で頂上に立った8月13日に頂上ピラミッドを下降中嵐に遭って亡くなった。秋に予定していたカンチェンジュンガを含めて、世界3大峰無酸素登頂プロジェクト遂行中の悲劇だった。

当時トム・バラードは6歳、6大北壁ソロのときはまだ4歳だった。アリソンの夫ジム・バラードはロッ

ククライマーで、アルパインクライミングはやらないが、それまでダービーシャーで経営していた登山用具店を売り払い、中古のランドローヴァーに家財いっさいを積み込んでスイス、フランス、イタリアのキャンプ場をわたり歩き、妻の冒険を支援した。幼いトムも妹(2歳)のケイトと一緒に2か月の野外生活を父母と過ごした。もっとも母親のほうは登りに行っていることが多く、幼い子どもたちは父親と過ごすのがもっばらだった。アリソンが遭難した年の秋、ジム・バラードはトムとケイトをつれてバルトロ氷河を訪れて、亡き妻の冥福を祈った。

トムが母の偉業を意識したのは、長じてクライミングの道に入ってからのことだった。史上最高の女流クライマーといわれた母の業績を継ぐべく、冬季6大北壁ソロを思い立った。クラッグのドライツリーングでは最高難度(D14、Dはドライツリーングを表す)まで登り、D12をオンサイトするまでになったトムは、その技術をベースにアルプスの大岩壁に挑む決意を固めた。その指標としたのは20年前に母が行なった一連のソロで、それを一冬で成し遂げることに意味を見出したのである。誰のサポートも受けずに行なわれた3か月にわたる単独登攀は、亡き母へのまたとないオマージュとなった。



(写真説明)
上/2月10日、マッターホルン北壁を登る。
下/3月8日、グランド・ジョラス頂上にて。
2点ともトム・バラード撮影

火山情報の提供に関する検討会報告

昨年9月27日の御嶽山の噴火災害を踏まえ、火山噴火予知連絡会では、火山観測体制等に関する検討会、及び火山情報の提供に関する検討会において、活火山の観測体制の強化、及び火山活動に関する情報提供のあり方について検討を行ってきた。昨年11月には、緊急的に対処すべき事項について、それぞれの検討会において緊急提言として取りまとめ、公表した。その後、緊急提言に基づく具体的な措置や中長期的な取り組みについて検討を行い、その検討結果を御嶽山の噴火災害から半年を迎える3月26日に最終報告として公表した。茲に本会も構成メンバーとして加わった火山情報の提供に関する検討会の最終報告の概要を記す。

尚、詳細な報告は、気象庁のHPをご覧ください。

1. わかりやすい情報提供

- ①噴火警報の発表基準の公表
- ②火山活動の変化を観測した段階での情報提供(火山活動に変化があった場合、気象庁は、火山活動の状況とともに気象庁の対応状況等を記載し、臨時であることを明記した「火山の状況に関する解説情報」

を発表する。)

- ③臨時の機動観測の適切な実施
- ④噴火警戒レベル1におけるキーワード「平常」の表現の見直し(「平常」の表現を、「活火山であることに留意」との表現に改める。)
- ⑤気象庁ホームページの充実
- ⑥噴火速報の発表
- ⑦火山情報のより効果的な提供に向けた取り組み(観測データの急激な変化が噴火発生や噴火初期の変動を捉えたものであるかどうかを短時間で判別するためのデータ処理手法の改善など)

2. 情報伝達手段の強化

- ①現地における情報伝達体制の強化(地元自治体等の関係機関と連携し、登山者等に確実に最新の火山情報が伝わるよう、平素から火山関係者との情報共有を図る。)
- ②火山情報の携帯端末への伝達(携帯端末の活用を意識した情報内容とするとともに、具体的な伝達方法について関係する事業者と調整する。)

3. 気象庁と関係機関の連携強化

- ①平素からの情報共有(気象庁は、火山防災協議会において、定期的に火山活動状況の情報共有を行う。)
- ②登山者等に対する周知啓発(火山に登山するにあたっての知識や留意事項について、周知啓発活動を

各火山に関する観測の実施状況

全国110の活火山のうち、主要な火山について、気象庁、大学、関係研究機関等が監視あるいは研究のための観測機器を設置



※これ以外に、情報通信研究機構が20火山について航空機による臨時観測を実施
 ※防災科学技術研究所は十勝岳と口永良部島で常時観測点設置予定
 ※新潟、神奈川、青ヶ島の大学常時観測点は私立大学によるもの

平成26年10月現在

下線は大学または防災科学技術研究所が観測する45火山
 赤字は平成20年12月の測地学分会火山部会において重点的な研究対象とされた16火山

行う。)

- ③気象庁の火山活動に伴う対応の明確化(火山活動の推移、及びその推移に応じた気象庁の対応について、火山防災協議会を通じて関係機関と共有する。)
 - ④火山防災対応手順の作成の推進(気象庁の対応に応じた地元関係機関の防災対応の流れについて検討し、「火山防災対応手順」として整理・共有する。)
 - ⑤火山活動の変化が観測された場合の連携した対応(気象庁及び関係機関は火山防災対応手順を参考に防災対応を連携して実施する。)
- (記 尾形好雄)

トピックス

全国「山の日」フォーラム開催

2016年8月11日からの「山の日」祝日化を記念した全国「山の日」フォーラムが、3月28日(土)～29日(日)に東京・有楽町の東京国際フォーラムで開催された。

会場には、地上広場に協賛各社の9ブース、ロビーギャラリーの出展ブースには54の各自治体・団体・企業が出展した。登山、トレラン、スキー、山小屋などに関する最新情報が得られるので、山ガールや中高年登山者で賑わっていた。本会も(旧)山岳5団体「山の日」協議会として出展し、来場者に山岳共済会の菓を配った。

ホールD5では、2日間「山の日」と「地方創生」、「山の日」と「山と自然の安全」と題したシンポジウムが行われた。また、地上広場の特設ステージでは、登山家、山岳ガイド、タレントらによる「山の日」アピール・トークショーが行われた。

主な出演者は、田部井淳子、今井通子、三浦雄一郎、荻原次晴、片山右京、KIKI、小林綾子、近藤謙司、花谷泰広、平山ユージ、野口健、なすび、田中正人、田中陽希ほか。

(記 尾形好雄)

ネパールへ行かれるなら

風の旅行社名古屋にお任せ下さい

ご友人同士、ご夫婦等、あなただけのオリジナルプランをご提案いたします。勿論、現地では日本語ガイドががっちりサポート！是非、お気軽にご相談下さい。

KAZE

株式会社 風の旅行社名古屋

愛知県知事登録旅行業第3-1367号 日本旅行業協会正会員
総合旅行業務取扱管理者 古谷 朋之
〒460-0008 名古屋市中区栄3-7-12 サカエ東栄ビル6F

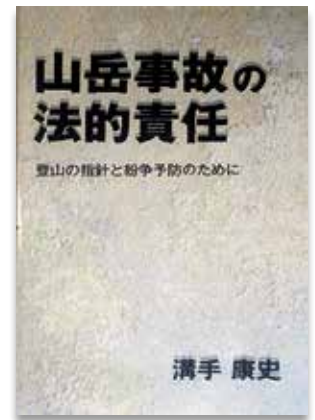
TEL 0120-987-321 FAX 052-228-6232 e-mail nagoya@kaze-travel.co.jp

新刊図書紹介

『山岳事故の法的責任』 登山の指針と紛争予防のために

溝手康史 著

本協会の顧問弁護士である著者は、2007年に登山に関する法律問題全般について説例と回答形式でまとめた『登山の法律学』(東京新聞出版部)を上梓されている。本書は、山岳事故の法的責任問題に限定して概説したもので、山岳事故での紛争を防止することを目的として執筆された。登山には競技スポーツのような一義的なルールがないため、違法性の判断が難しい。どういった場合に山岳事故の民事責任や刑事責任が生じるのかが明確になれば、それを指針に行動でき、紛争を未然に防止できる。本書は登山行動の指針に参考になる。



A 5版、88頁、定価1,100円＋税、2015年2月28日、ブイツーソリューション刊、発売元：星雲社(03-3947-1021)



憧れのジョン・ミュア・トレイルを歩いて米国本土最高峰の頂きへ

限定8名様 米国本土最高峰
Mt. ホワイトニー登頂 10日間

発着地 東京 出発日 8/18(火)・9/1(火)

旅行代金 ¥684,000～¥748,000

※燃料サーチャージ(2015年2月20日現在：目安約28,000円)が別途必要です。

旅行企画・実施 観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員/JCTF保証会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海ビル4階 ☎03-3503-1911
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

平成26年度代表者会議報告

平成26年度代表者会議が2月15日(日)に日本青年館ホテルで開催された。会議には正会員団体代表者44名、役員・委員長20名が出席した。

会議に先立ち、神崎会長の挨拶があり、次いで、神崎会長を議長として会議日程に入った。

先ず、尾形専務理事から下記報告事項について資料に基づき一括説明が行われ、質疑応答を受けた。

- (1) 平成26年度事業経過報告について
- (2) 平成26年度会計中間報告について
- (3) 平成27年度事業計画案について
- (4) 平成27年度収支予算案について
- (5) 平成26年度山岳共済会事業経過報告について
- (6) 平成27年度山岳共済会事業計画案及び予算案について
- (7) 山岳遭難捜索保険について
- (8) 全国「山の日」フォーラムについて
- (9) 第54回全日本登山体育大会について
- (10) スポーツライミングのオリンピック競技種目への参入について

主な質疑応答は、以下の通り。

1. 「登山」と「競技」の予算比率について

年度予算に占める割合は、競技の事業件数が多いため競技51.2%、登山24.3%となっている。一方、本会の収入は事業収入と補助金収入で84.3%占める。事業収入の54.2%は競技での収入で、補助金収入の77%は競技関連の補助金である。共済会の委託事業は、登山が20,593千円、競技が13,020千円。登録料収入11,200千円の内、8,400千円は選手登録料である。これを競技収入とすれば、共済会委託事業費は、4,620千円となる。

いまこそ「登山」関連事業に大カンフル剤を打って、新規事業の展開や既存事業のスケールアップを図らなければ、競技偏重の事業計画が解消されない。

2. 山岳遭難・捜索保険について

山岳共済会の山岳遭難・捜索保険は、団体総合生活保障保険(傷害補償(標準型)特約付)に「山岳遭難・捜索」補償を担保した商品として提供しているため、はじめから24時間及び業務従事中でも補償する保険となっている。

3. 「山の日」制定記念事業について

日山協として具体的な計画は未だ白紙の状態、代

表者の皆さんに相談させて頂きたい。全国9ブロックに対して各ブロック20万円の予算を計上した。ブロック単位で企画していただければ、と思っている。現在、協力依頼がきているのは、超党派議員連盟「山の日」協議会が8月11日に大分県の九重山塊で開催予定している「山の日」祝日プレ・イベントのみである。

4. 少年少女登山教室について

ジュニア登山教室in立山の予算は、大半が受益者負担として参加費で賄われており、本会分は38万円である。少年少女登山教室の予算は、日本山岳遺産基金から50万円協賛して頂いており、総額140万円の予算である。

5. 競技者登録について

1月末の登録者総数は、8,311名で、内訳は、高体連7,553名、岳連(協会)594名、個人登録164名である。高体連登山専門部の加盟校数は、779校で部員数は10,275名。

6. 自然保護指導員について

現在の指導員数は、1,414名。平成26年度新規登録者48名、辞退者80名、減少者数32名である。

7. 審判員、競技運営員の資格認定について

競技運営員の更新制度は無くなり、資格有効期間は5年間で1回限りとなった。競技運営員の資格認定については、今年度から受講後に受講証明書を渡している。審判員の資格認定は、事務局の対応が遅れていて申し訳ない。

8. 安全登山実践講座について

基礎編が順調に軌道に乗ったらゆくゆくは応用編も考えていきたい。基礎編の状況は、人集めに苦労している。都岳連の受講者は、当初7名のスタートであった。講座名から内容が見えてこない点や日山協のブランド名では集客につながらないことが分かった。

平成27年度からの各岳連での本格実施については、指導委員総会前までに指針等の情報を発信したい。

9. 火山情報の提供について

日山協としては、全国山岳遭難対策協議会と連携しながら遭難対策委員会で担当していきたい。

質疑応答の後、鹿児島県から北海道まで各岳連(協会)から近況報告をしていただいた。

(記 尾形好雄)

平成27年度定時総会

日時 5月31日(日)10時30分～15時(予定)
会場 岸記念体育会館101～103号室

平成26年度理事会(第4回)報告

1. 日 時 平成27年3月8日(日)

2. 場 所 岸記念体育会館101～103号会議室

3. 出席者

理事：神崎忠男、國松嘉伸、佐藤旺、尾形好雄、小野寺齊、西内博、仙石富英、森下健七郎、京才昭、水島彰治、瀧本健、青木秀則、相良忠麿、小野倫夫、高橋時夫、小宮山稔、永山義春、亀井正明、伊藤克己、小林弘之、宮崎良平、多田修、以上22名

監事：内藤順造、岡本忠良、中畠正喜、以上3名
(欠席者)八木原罔明、増山茂、北村憲彦以上3名

4. 開 会

神崎会長の挨拶に続いて、定款第32条第1項に定めるところにより、神崎会長が本会議の議長となり、定款第33条第1項に定める定足数の充足を確認して、本会議の開会を宣言した。

次いで、定款第34条第2項に基づき議事録署名人を神崎会長、内藤・岡本・中畠各監事とし、議案の審議に入った。

5. 報 告

(1) 報告第1号 平成26年度事業経過報告及び会計経過報告について

尾形専務理事から資料に基づき、経過報告がなされた。(異議無く、出席理事全員が了承した。)

続いて相良理事から会計資料に基づき、平成27年1月末までの貸借対照表、財産目録、正味財産増減計算書内訳表について報告された。(異議無く、出席理事全員が了承した。)

(2) 報告第2号 平成26年度山岳共済会事業経過報、日本山岳協会山岳共済会規程改定案及び運営委員会規程案について

尾形専務理事から資料に基づき、経過報告と監事指摘の山岳共済会運営委員会の活性化とガバナンス確立のために山岳共済会規程の改定及び運営委員会規程の整備等について理事各位に検討して頂き、平成27年5月の理事会で決定したい、と報告された。(経過報告は、出席理事全員が了承した。)

6. 議 事

(1) 議案第1号 平成26年度補正予算について

小野寺常務理事が第1号議案の議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。議案第1号は、賛成22、反対0で承認可決された。

(2) 議案第2号 平成27年度事業計画(案)について

(3) 議案第3号 平成27年度収支予算(案)について

議長より議案第2号及び第3号は、関連議案であるので、2つの議案説明後、質疑を受けたいと諮り、了承された。まず、尾形専務理事が議案第2号の議案説明を行い、次いで相良理事が議案第3号の議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。

主な質疑は以下の通り。

○「山の日」制定記念事業について

「山の日」祝日化については、山岳団体として大いに期待感を持っている。記念事業を各ブロックに任せる、ということだが、日山協から「山の日」キャンペーンのガイドラインを岳連・協会に明示してもらえると取り組み易い。日山協として対外的にもっと「山の日」をアピールすべきではないか。

この記念事業の予算は、安全登山啓発事業に192万円を予算付けした。内訳は各ブロックへの助成金20万円と記念品制作費である。これは安全登山啓発事業という公益目的事業への助成金なので、実施計画書を添えて申請して頂く必要がある。助成金の対象事業は、1件に限らない。幾つかの事業を企画するのであれば、各事業に分配して使って貰えばよい。

27年度は、「山の日」の周知費用としての位置づけだが、28年度からは別途予算付けをしてこの「山の日」をきっかけとして新規事業の展開を図っていききたい。来年の本番に向けて広く国民に「山の日」祝日を浸透させるためには、8月11日だけに縛られることなく年間を通じて「山の日」祝日を啓発していく必要がある。

○収支予算について

補正予算で会費収入減が補正される中で、新年度予算額が膨れているのは、競技関係の事業が増えているため、年々予算額が増加傾向にある。

少年少女登山教室のような1件当たり5万円という紐付き予算ではなく、各岳連がやりたい事業に対してもっと手厚く支援するようなことを検討すべきではないか。

○競技運営員について

国体の競技運営員は、任期5年で国体が終われば終わってしまう。競技運営委員の在り方を検討して貰いたい。本国体では、選手、監督、役員等の服装・用具は規定されているが、ブロック大会では規程が無いのか、役員の服装が酷いと指摘を受けている。きちんとすべきではないか。

競技運営員については、昨年から資格の有効を5年とし、更新無しとした。この資格は国体に限定したス

タッフとの認識である。

ブロック大会では、各ブロックの事情があって本国体のようにはいってないのが現状である。良い方策をご提案いただければ検討する。服装規程については I F S C ルール等に準じてブロック大会でも本国体のような対応が出来るようアナウンスしていきたい。

以上の質疑の後、議案第 2 号及び第 3 号は、賛成 22、反対 0 で承認可決された。

(4) 議案第 4 号 平成 27 年度山岳共済会事業計画及び収支予算(案)について

尾形専務理事から第 4 号議案の議案説明を行い、説明終了後、議長が議場に諮った。

○山岳遭難・捜索保険について

岳連行事の冬山登山教室で付保した保険料が 1,000 円(1泊2日)程度であった。山岳共済会でもこのようなスポット的な保険の商品化は考えられないか。

直近の山行のためにスポット契約したいという登山者には、国内旅行傷害保険を勧めているが、どうしても保険料が割高になってしまう。山岳共済会の「山岳遭難・捜索保険」は団体契約保険で保険料が約 52% も割引になっている。ハイキングコース I 型の場合、年間保険料が 2,240 円で、加入月別で割引している。そのためスポット的な保険の商品化はしていない。

以上の質疑の後、議案第 4 号は、賛成 22、反対 0 で承認可決された。

(5) 議案第 5 号 役員選考規程の一部改訂及び会長・副会長推薦委員会運営細則の承認について

議案第 5 号は、全員一致で承認可決された。

(6) 議案第 6 号 参与推薦の承認について

議案第 6 号は、佐々木義博氏(山形県山岳連盟)の参与推薦が全員一致で承認可決された。

(7) 議案第 7 号 賛助会員の入会承認について

議案第 7 号は、株式会社牛走運送と佐々木義弘氏の賛助会員入会が、全員一致で承認可決された。

7 その他

(1) 業務執行理事の職務執行報告について

議長より、法令に基づき代表理事(会長)及び業務執行理事から平成 26 年度下期の職務執行報告を行うとの説明があり、神崎会長及び業務執行理事から資料に基づき順次、各自の職務執行を報告した。

(2) 平成 26 年度代表者会議報告について

尾形専務理事から資料に基づき平成 26 年度代表者会議の報告がなされた。

尚、議案第 4 号承認の後、監事より以下のような指摘があった。

3月3日に監事会を持って3つの事項について協議・確認した。①当初の赤字予算が黒字に転換した理由の確認。②監査メモでも指摘した通り、公益法人に移行して間もなく2年になるが、ガバナンスの確立が不十分である。これは具体性に欠けたアクションプランのため、理解されていないからで、具体性を持ったアクションプランを策定して、理事会で活発な意見交換をして前に進んではどうか。③山岳共済会のアクションプランでは6万人、10万人と目標を掲げているが、この通りいけるのか心配である。共済会の独自事業の展開など、色々な施策を講じていかないと日山協の生き残りが心配である。組織を挙げて加入者増を図る体制作りが必要。

さらに登山者の変化と公益法人に移行した本会の在り方が、非常に大きく関係してきている。場合によれば組織を維持するところで突き当たる可能性がある。このあたりも踏まえたアクションプランを策定して前に進んで貰いたい。新規事業検討委員会や「山の日」を活用した未組織登山者への対応。未組織登山者の年齢構成が30～40代と若返ってきたギャップをどうやって施策の中に埋め込んでいくか、などについて出来るだけ早く具体化して周知・展開して貰いたい。予算については予算編成時の精度を上げて執行して貰いたい。


8 閉会

以上をもって全ての議事の審議を終了し、閉会した。(記 尾形好雄)

読者プレゼント

米国エムパワード社 ソーラー・ランタン・エマージ

使用時は空気を入れて膨らませ、充電は太陽光、IP67準拠雨中でご利用も！
僅か70gで明るさ2段階連続点灯は7時間、緊急時SOS符号を赤色白色で点滅点灯！抽選で10名様にプレゼントいたします。



【応募方法】 はがきに、①郵便番号②住所③電話番号④氏名⑤年齢⑥性別⑦職業をご記載下さい。

【宛先】
〒154-8539 東京都世田谷区三軒茶屋2-11-22
サンタワーズセンタービル
エム・シー・エム・ジャパン株式会社
「日本山岳協会プレゼント」係

【締切】 5月10日
詳細情報: <http://www.mpowerd.jp/index.html>

平成27年度主な事業計画

1. 会議等

- ・総会 5/31(日)
- ・理事会 5/16(土)、5/31(日)、11/8(日)、28年3/6(日)
- ・代表者会議 28年2/14(日)
- ・全国参与会 10/9(土) 宮城県
- ・新春懇談会 28年1/16(土) アルカディア市ヶ谷

2. 専門委員会総会

- ・競技部委員総会 4/5(日) 岸記念体育会館
- ・指導委員総会 6/13(土)～14(日) 東京海員会館
- ・国際委員総会兼第34回海外遭難対策研究会 6/13(土)～14(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・遭難対策研修会兼委員総会 6/27(土)～28(日) 関西大学高槻キャンパス
- ・第39回自然保護委員総会 9/12(土)～13(日) 福島県・磐梯青少年交流の家

3. 青少年育成事業

- ・第59回全国高等学校登山大会 8/7(金)～11(火) 滋賀県・高島トレイル、比良山系
- ・第6回全国高等学校選抜クライミング選手権大会 12/23(水・祝)～24(木) 加須市民体育館
- ・ジュニア普及情報交換会 28年2/13(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・みんな集まれ!ジュニア登山教室 in 立山2015 8/16(日)～19(水) 国立立山青少年自然の家、立山周辺
- ・みんな集まれ!なすかし雪遊び隊2016 3/27(日)～28(月) 国立那須甲子青少年自然の家
- ・「山の日」制定記念事業「ふるさとの山を登ろう」 8/11(火)

4. 安全登山の啓発事業

- ・中高年安全登山指導者講習会
- ①東部地区(東京・高尾山) 9/11(金)～13(日)
- ②西部地区(京都一周トレール京北コース・飯盛山周辺) 11/28(土)～30(月)
- ・山岳レスキュー講習会
- ①西部地区(富山県・国立登山研修所) 9/11(金)～13(日)
- ②東部地区(群馬県・土合山の家) 28年1/29(金)～31(日)
- ・第54回全日本登山体育大会 10/9(金)～11(日)

宮城県・栗駒山周辺

- ・海外登山懇談会 11/5(木) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・第54回海外登山技術研究会 28年2/13(土)～14(日) 国立オリンピック記念青少年総合センター
- ・平成27年度全国山岳遭難対策協議会 7/2(木) 東京

5. 登山指導者育成事業

- ・氷雪技術研修会 4/25(土)～26(日) 富士山
- ・登攀技術研修会 11/21(土)～22(日) 神奈川県山岳スポーツセンター
- ・氷雪技術研修会 2/20(土)～21(日) 大山
- ・安全登山実践講座・基礎編 4月～3月
- ・指導・遭対委合同研修会 6/20(土)～21(日)
- ・SC-A級主任検定員養成講習会 11/21(土)～22(日) (東京・昭島)
- ・SC上級指導員養成講習会 7/10(金)～12(日) (東京・昭島)

6. 競技会運営事業

- ・第10回山岳スキー競技日本選手権大会 4/4(土)～5(日) 長野県・榑池高原
- ・ボルダリング日本ユース選手権2015 5/16(土)～17(日) 倉吉体育文化会館
- ・第29回リード・ジャパンカップ 6/6(土)～7(日) 和歌山・みなべ町
- ・第18回JOCジュニアオリンピックカップ 8/14(金)～16(日) 富山県南砺市桜が池cc
- ・全国ルートセッター研修会 8/17(月)～19(水) 富山県南砺市桜が池cc
- ・第70回和歌山国体山岳競技 10/3(土)～5(月) 和歌山県みなべ町
- ・第11回ボルダリング・ジャパンカップ 28年1/30(土)～31(日) 加須市民体育会館
- ・クライミング日本ユース選手権2016 28年3/26(土)～27(日) 千葉県印西市
- ・I F S C ジャッジ・セッターコース講習会の開催

7. 競技力向上事業

- ・世界ユース選手権大会 8/28(金)～9/6(日) イタリア・アルコ
- ・アジアユース選手権大会(未定)

8. 国際交流事業

- ・UIAA登山委員会 4/10(土)～11(日) 関西大学高槻キャンパス
- ・日中韓登山技術交流研修会派遣(10月韓国)
- ・BMC International Climbers Meetへの派遣

中国地区山岳連盟連絡協議会に参加して 副会長 國松嘉伸

去る3月14日(土)・15日(日)、鳥取県日吉津村所在の「うなばら荘」で開催された「中国地区山岳連盟連絡協議会」に、日本山岳協会を代表して参加した。

鳥取県日吉津村は、三方を米子市に囲まれた鳥取県唯一の「村」で、人口はおよそ3,300人。県の人口が減少傾向にある中で村の人口は増え続けている。

平野部に位置し「村」の雰囲気はまるで感じられず、街のどこからでも「大山」が一望できる。会場となった「うなばら荘」は、その村の北端、日本海的美保湾に面した眺望満点の場所にあった。

1日目の3月14日は、会場から300キロ以上離れた山口県山岳連盟はじめ、中国地区五県の皆さんが参集され、午後2時から会議が始まった。

年に一度、この時期に開催される協議会は、次年度の中国地区山岳連盟(協会)の事業計画とその事業をどう分担するのが主な議題である。

まず、会議の冒頭、大西一俊鳥取県山岳協会会長が開会挨拶をされた。

引き続き、愚生から「日本山岳協会の取り組みと課題」について、約45分講話をさせてもらった。

その後、

①国体中国ブロック予選会の実施について、

②中国高校登山大会の実施について

など5項目の協議が行われた。

また、鳥取県が平成28年に「創立50周年」を迎えられることから、その事業として、日本山岳協会(日山協)主催の「全日本クライミングユース選手権ボルダリング競技大会2015」を開催することについての説明があった。

一方、次年度、日山協が安全登山普及事業の一環として取り組む「山の日」制定記念事業「ふるさとの山を登ろう」について、中国地区としてどう取り組むかが検討された。

協議終了後、午後6時から懇談会が開かれ、協議会で論議された事項も含め、情報交換が行われた。

2日目は、中国地区の各岳連(協会)からの報告・依頼事項について話し合われた。

今回の協議会を通して、改めて感じたことは「我が国の登山界をけん引する責任組織としての日山協」となるためメルクマールは、日山協を支えている加盟団体の思いや提言に、もっと耳を傾け真摯に向き合うことであり、そのためには、日山協の業務執行理事が、機会あるごとに地方に出かけることである。

むすびに、今回もお世話になった中国地区山岳連盟(協会)皆様に、感謝とお礼を申しあげ、今後益々のご発展を心からご祈念申し上げます。



平成26年度3月(27年2月)
常務理事会・連絡部会報告

日時 平成27年2月26日(木)
常務理事会：17時45分～19時
連絡部会：19時～20時50分
場所 岸記念体育会館103号
出席者 常務理事会：神崎会長、八木原・國松・佐藤副会長、尾形専務理事、小野寺、西内、森下、京オ、水島、瀧本、青木各常務理事、中島監事
委任 仙石常務理事(常務理事13名中12名出席)
連絡部会：西原、石倉各委員長
委任：相良、増山各理事、澤田、山本、北山、角田各委員長

1. 議事

- (1)平成26年度2月常務理事会議事録の承認について(異議無く承認された。)
- (2)平成26年度代表者会議議事録の承認について(尾形専務理事より資料に基づき説明。近畿地区山岳連盟及び愛知県山岳連盟からの質問状と回答も記載することにして承認された。)
- (3)平成27年度事業計画(案)及び収支予算(案)の承認について(尾形専務理事より競技部から復活要望のあったIFSC ジャッジ・セッターコース講習会事業(収

- 支180万)を加筆、法人会計の受取寄附金を一般寄附金と指定寄附金に分けた旨の説明があり、承認された。)
- (4)平成26年度補正予算(案)の承認について(小野寺常務理事から資料に基づき、補正予算(案)について説明。中島監事より説明文に補正後の収支金額の説明を記載するよう指摘を受け、補正予算(案)は承認された。)
 - (5)役員選考規程の一部改定について(尾形専務理事より資料に基づき改定提案の説明があり、一部加筆訂正して理事会の議案とすることが承認された。)
 - (6)理事会(第4回)の議事次第について(尾形専務理事の説明の後、次第の入れ替えなどが指摘され、承認された。)
 - (7)スポーツ指導者資格(ACとSC)の分離について(瀧本常務理事より資料に基づき説明され、ACとSCの資格分離の基本方針を日本体育協会に申し出ることが承認された。)
 - (8)山岳スキーアジア選手権・韓国2015への選手派遣について(佐伯尚幸団長ほか東井透、三浦裕司、山田宏選手の派遣が承認された。)
 - (9)報告事項
ア 会計月次報告
小野寺常務理事より1月31日までの会計報告がなされた。
イ 和歌山国体準備状況について
西原委員長よりリハーサル大会の役員編成、近畿地区ブロック研修会で審判員の資質向上を図った事、リハーサル大会2日目のボルダリング競技はしな

- い事などが報告された。
- ウ 第71回岩手国体山岳競技会競技場施設配置について
西原委員長より岩手県山岳協会から確認申請のあった山岳競技会競技場施設配置について確認の回答した旨、報告があった。
 - エ 第73回福井国体山岳競技会日程について
西原委員長より福井県山岳連盟から確認申請のあった山岳競技会日程3案について確認した、と回答した旨、報告があった。
 - オ 第72回愛媛国体競技役員等編成照会について
適正であることを確認した、と回答した旨報告があった。
 - カ 第69回長崎国体九州ブロック大会での参加資格違反について
福岡県山岳連盟に競技部長名で注意喚起文書を送付した旨、報告があった。
 - キ クライミング日本選手権の日程変更の顛末について
森下常務理事より日本選手権(平成27年度事業)の日程変更の顛末について報告があった。
 - ク 全国「山の日」フォーラムについて
尾形専務理事より全国「山の日」フォーラムに山岳5団体でブースを出展することが報告された。本会負担金は5万円。
 - キ 平成28年勲章及び褒章候補者の推薦について
尾形専務理事より調査の結果、本会の役員歴20年以上の対象者はいなかっ

- たことが報告され、対象者無しとすることが報告された。
- ク 平成26年度JOC女性スポーツ賞候補者の推薦について
尾形専務理事より2月常務理事会で推薦された遠藤由加氏の推薦調書を提出した旨、報告があった。
- ケ 平成27年度自然公園指導員表彰候補者の推薦について
自然保護委員会から瀬戸朋義(67、埼玉岳連)、服部一雄(62、青森岳連)の2名の推薦があった旨、報告があった。
- コ ボルダリングジャパンカップ2015の報告について
森下常務理事より2/21~22に埼玉県深谷市で開催された「キョウリン製菓 presents ボルダリングジャパンカップ2015」の報告があった。
- サ 平成26年度JOCアントラージュ・フォーラムの報告について
森下常務理事より2/18に開催されたフォーラムについて報告があった。

2. 後援、協賛等の依頼について
- (1)東北の高校生富士登山～登ろう！
日本一の富士山へ～(山と溪谷社/日本山岳遺産基金/田部井淳子主催)(回答済み)
- (2)「南極越冬～観測隊の生活と南極の自然～」報告会(福井県山岳連盟主催)(異議無く承認された)
3. 報告
- (1)指導員の認定承認
- ①AC指導員
石原学、鈴木仁伸、中道輝久、浅原克己、明石秀太、田中将裕、高野慎一郎、以上静岡7名の認定が承認された。
4. 日誌(2月5日～2月25日)
- (1)山岳スキー競技世界選手権2015
2月6日(金)～14日(土) 於: スイス
笹生团长ほか選手4名
- (2)IFSCマルコ会長来日 2月8日(日)
- (3)衛藤征士郎議員表敬 2月9日(月)
於: 衆議院第1議員会館 尾形専務理事

- 事、小野寺常務理事、小日向副委員長、(マルコ会長)
- (4)JOC竹田会長表敬 2月10日(火) 於: JOC 八木原副会長、尾形専務理事、小野寺・森下常務理事、小日向副委員長、(マルコ会長)
- (5)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会表敬 2月13日(金)
於: 東京都庁舎 田中顧問、尾形専務理事、小野寺・森下常務理事、小日向副委員長、(マルコ会長)
- (6)昭和飛行機工業(株)打ち合わせ 2月13日(金) 於: 昭和飛行機工業 神崎会長、尾形専務理事、森下常務理事、小日向副委員長、(マルコ会長)
- (7)IFSCマルコ会長離日 2月14日(土)
- (8)ジュニア普及情報交換会 2月14日(土)
於: 国立オリンピック記念青少年総合センター 神崎会長、八木原副会長、青木・西内・仙石常務理事
- (9)日本トレイルランニング会議 2月14日(土) 於: 岸記念体育会館 田中顧問、佐藤副会長、水島常務理事
- (10)平成26年度代表者会議 2月15日(日) 於: 日本青年館ホテル 神崎会長ほか
- (11)環境省国立公園内トレラン規制説明会 2月17日(火) 於: 新宿御苑インフォメーション・センター 八木原副会長
- (12)第3回火山防災対策推進WG 2月18日(水) 於: 中央合同庁舎8号館 尾形専務理事
- (13)第5回火山情報の提供に関する検討会 2月18日(水) 於: 気象庁 尾形専務理事
- (14)JOCアントラージュ・フォーラム 2月18日(水) 於: 味の素ナショナルトレセン大研修室 森下常務理事、中川事務局長
- (15)JOCスポーツと環境担当者会議 2月19日(木) 於: 味の素ナショナルトレセン大研修室 松隈副委員長
- (16)第10回ボルダリングジャパンカップ 2月21日(土)～22日(日) 於: 深谷クライングヴィレッジ 神崎会長、森下常務理事、北山・山本委員長
- (17)関東地区山岳連盟連絡協議会総会 2月21日(土) 於: 栃木県・宇都宮 神崎会長

寄贈図書

寄贈本	名越 真由美 溝手康史 山と溪谷社	「名越 實 追悼集」 「山岳事故の法的責任」溝手康史 著 「現代ヒマラヤ登攀史」池田常道 著
雑誌	山と溪谷社 山と溪谷社 (株)ネイチュアエンタープライズ	「ROCK & SNOW」2015 Mar 067 「山と溪谷」2015 4月 「岳人」2015年 April No.814
会報	NPO日本トレニング指導者協会	「JATI EXPRESS」Vol. 45
	スポーツこころのプロジェクト運営委員会	スポーツこころのプロジェクト新聞「笑顔をありがとう」第8号
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第573号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第420号
	La rivista del Club alpino italiano	「Montagne360」febraio 2015
	おいらく山岳会	「山行手帖」No.663 '15.3
	(公財)東京都スポーツ文化事業団	「スマイルスポーツ」vol.61
	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」2015 3月 No.443
	横浜山岳会	「月刊山」993号 平成27年3月
	(公財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ」アルク 2015. 4・5
	(公財)全日本ボウリング協会	「JBC news」第520号
	(公財)尾瀬保護財団	「はらかな尾瀬」vol. 26
	FEEC	「VERTEX」NUM257
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」vol. 1 8
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」特別号 2015 03-04
	長野山岳協会	「やまなみ」No.216
	(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2015.3.10 No.305
	日本スポーツ芸術協会	「スポーツ芸術」March 2015
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・体協フェアプレイニュース」2015年3月9日号
	(公社)日本スポーツチャンバラ協会	「2015年度 会報」No.32
中華民国山岳協会	「中華山岳」245	
Korean Alpine Federation	「大山嶽」Vol. 195 2015 March	
日本勤労者山岳連盟	「登山時報」2015 4 No.482	
新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第316号	
FEEC	「VERTEX」258	
(公社)日本山岳会	「山」2015年3月号 No.838	
東京野歩路会	「山嶺」vol.92 No.1021	
愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第412号	
(一財)日本スポーツプレス協会	「Extreme PRESS」Vol. 14	
(一財)日本スポーツプレス協会	「A J P S マガジン」Vol. 32	
日本スポーツ振興センター	「News Letter JISS」Vol. 27	
大阪府体育会館	「季刊 府立体育館」No.112	
La rivista del Club Alpino Italiano	「Montagne360」mauzo 2015	
おいらく山岳会	「山行手帖」No.664 '15.4	
NPO生態教育センター	「生態計画研究所」年報No.9	
横浜山岳会	「山」994号 2015年4月	

編集後記

新年度を迎え「登山月報」もリニューアルに取り組みます。泥縄から会員の目にとまる誌面へトライしますので源泉である記事や情報提供を宜しく願います。

計画重視より出来ることから始めましょう。(広報担当 水島彰治)

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和四峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 八重山トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第553号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)

昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 平成27年4月15日
発行者 東京都渋谷区神南1-1-1
岸記念体育会館内
公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396
FAX 03-3481-2395

山岳
雑誌

岳人

山と人、
時代をつなぐ
「岳人」。

ひとたびページをめくると、先鋭的な現役クライマーから、散策を楽しむ登山愛好者、一線を退いた往年の登山家まで、“岳”を愛するすべての人々の想像力と冒険心をかきたてる、そんな存在でありたい。山の魅力や楽しさ、そこで生まれた文化を伝え、山と人との関係をより良いものにしたい、そんな思いを込め「岳人」をお届けします。

年間購読がおすすすめです。

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常本体価格1冊

年間購読12冊

680円

(税込734円)

7,480円

(税込8,078円)

1年で680円
1冊分無料

年間購読
特典!



岳人オリジナル
マグカップを
プレゼント!



「岳人」5月号

【特集】ベースキャンプで山を満喫

【好評連載】夢枕 獺「神々の山嶺」創作ノート
／フリチョフ・ナンセン「グリーンランド初横断」
／石川直樹「まれびと」／秘境探訪 ほか

5月号
4/15発売

★モンベルのウェブ
サイト、全国のモン
ベルストアや書店
にて発売中!

年間購読
お申し込み方法

●ウェブサイトで

<http://www.gakujin.jp>

●お電話で(受付後に振込用紙をお送りします)

0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

●全国のモンベルストアで

<http://store.montbell.jp>

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上



三井住友海上の安心

GK

www.ms-ins.com

山岳保険の加入は 登山者のマナーです。

あなたの山岳保険は、大丈夫ですか？

■平成25年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成26年6月12日)

発生件数 **2,172** 件 (前年対比 184件増)

遭難者数 **2,713** 人 (前年対比 248人増)

死者・行方不明者 **320** 人 (前年対比 36人増)

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
U R L : <http://sangakukyousai.com>